

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名 **建設局**

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	快適に暮らせる身近な生活空間づくり
	取組みの方針	うるおいのある空間づくり

担当局 / 総務担当課名	建設局	総務課
連絡先	582 - 2252	

21年度計画

-1-(2)-

施 策 名 **市民に親しまれる水際線・農山村風景づくり**

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	川などの自然環境とふれ合え、親水空間を楽しめる水際線づくりを進めます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	うるおいのある空間づくり

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		平成21年度	目標値	
	年度	平成20年度	計画	実績		年度	平成25年度
環境に配慮した護岸の整備延長	年度	平成20年度	計画	実績	30,100 m	年度	平成25年度
	現状値	30,000m		達成度	30,600 m	目標値	31,500m
					101.7 %		
	年度		計画			年度	
	現状値		実績			目標値	
			達成度		%		
都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、市民の憩と潤いの場として活用し、生物の生息・生育環境を保全することによって、親しみのある河川を取り戻すために、魚巣ブロック等、生物に配慮した護岸の整備を進めます。平成25年度に整備延長を31,500mと設定します。	年度		計画			年度	
	現状値		実績			目標値	
			達成度		%		
	年度		計画			年度	
	現状値		実績			目標値	
			達成度		%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]		事業費	1,200,713 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)		
			うち一般財源	49,467 千円	39,000 千円		

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	A	生態系調査の結果、生物の種類・数ともに増加しており、市民が親しみやすい水際線づくりが着実に進んでいます。また河川ごとに効果的な検討をすることで、コストの削減効果もできています。
		今後は、生物の生息・生育環境の改善が図られているため、現状のまま取り組むことが重要と考えています。合わせて、近年のゲリラ豪雨への対応も考慮した河川の整備が必要と考えます。

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価
 下記のとおり

目標値の考え方を示すことが必要と考えます。

施策名

市民に親しまれる水際線・農山村風景づくり

構成事業名	事業費		事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]				21年度			21年度
暮らしにうるおいを与える河川整備事業			1,200,713 千円	39,000 千円	裁量的経費			ウ
事業費のうち一般財源			49,467 千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
	1,200,713 千円	39,000 千円
施策全体の事業費のうち一般財源	49,467 千円	

局施策の
21年度評価

A

- 【局施策評価】
 A: 大変良い状況にある
 B: 概ね良い状況にある
 C: 概ね良い状況とまでは言えない
 D: 不十分な状況にある

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	建設局	計画課
連絡先	582-2480	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	快適に暮らせる身近な生活空間づくり
	取組みの方針	うるおいのある空間づくり
	主要施策	市民に親しまれる水際線・農山村風景づくり

関連計画	
事業期間	H19~
経費区分	裁量の経費

-1-(2)-

事業名	暮らしにうるおいを与える河川整備事業
-----	--------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	これまでの河川事業は治水整備を中心に行われてきました。このため、生物の生息・生育環境、地域の景観などへの配慮が不足し、私たちの日常生活から河川を遠ざけてしまいました。そこで、都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、市民の憩と潤いの場として活用し、生物の生息・生育環境を保全することによって、親しみのある河川を取り戻すために、魚巣ブロック等生物に配慮した護岸の整備を進めています。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民に親しまれる水際線・農山村風景づくり	成果

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		当初計画	魚巣ブロック等での護岸の整備工事					予想以上の進捗であるため、目標整備延長を変更する。	
		現状	魚巣ブロック等での護岸の整備工事						
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成21年度	目標		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]	環境に配慮した護岸整備				計画	30,100 m	年度	平成25年度
		魚巣ブロック等、生物に配慮した護岸の整備を進めます。				実績	30,600 m	内容	31,400m
						達成度	101.7 %	年度	
						計画		内容	
単年度計画						事業費	1,200,713 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
						うち一般財源	49,467 千円	39,000 千円	
								計画課...計画策定 設計課...設計・ 工事発注 東西整備事務所... 工事監督	

事業の実施結果・進捗状況の確認	実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成21年度は計画以上に環境に配慮した護岸の整備が進みましたので、目標整備延長を増加する事としました。今後も出来る限り環境に配慮した整備を行いたいと思います。
-----------------	------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	生態系調査の結果、環境に配慮した整備を行った河川は生物の種類・数ともに増加しており、有効性は高いと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	各河川ごとに工法の検討など行い、一番安価で効果のある工法を選択しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	生物の生息・生育環境の改善は早いほど効果があるため、今実施するのが望ましいと考えます。また、近年のゲリラ豪雨により河川の改修が必要に迫られているため、あわせて治水整備を行うという効果的であると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。		4	他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当と考えられる。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	生物の生息・生育環境の改善が図られているため、現状のまま進めることが適当と考えます。また、近年のゲリラ豪雨により河川の改修が必要に迫られているため、あわせて治水整備を行うべきだと考えます。